

## 102 回国際理解講座 講演要旨

国分寺市国際協会  
国際理解部会

第 102 回「国際理解講座」〈世界を知ろうシリーズ〉を 2023 年 10 月 9 日、ひかりプラザで開催しました。今回は国分寺市とオーストラリア・マリオン市との姉妹都市 30 周年の記念も兼ねて、講師に国分寺市内の大学、高校と交流のあったマリオン市ハレッドコープ校元校長のピーター・レベレンツさんをお迎えし、**The Challenges for Australia: Past, Present and Future** というテーマで講演をいただきました。通訳なしの英語でのスピーチでしたが、オーストラリアの基本的な情報、歴史、文化、生活、自然、産業、気候変動など細部に亘るオーストラリアの実状、さらにマリオン市がある南オーストラリア州の特徴などについて数多くの映像とともにお話いただきました。聴講者はレベレンツさんの話される英語を楽しみながら聴き入り、オーストラリアについての理解が深められたと、たいへん好評でした。

講座終了後、レベレンツさんご夫妻をお招きして懇親会を催し、小田会長、梶原運営委員長も参加され、みなさんが楽しく歓談して国際・市民交流ができました。

なお、レベレンツさんからオーストラリアの先住民が生活で使用していた伝統の品のブーメランと装飾品、来年のカレンダー（以上事務局に保管）、アデレード市案内小冊子をお土産としていただきました。

以下にレベレンツさんのお話と映し出された映像から講演の概要を簡単にまとめましたので紹介します。

### 1. オーストラリアの基本情報

- ・国名は「**Commonwealth of Australia**」（オーストラリア連邦）
- ・国土面積は約 770 万平方キロメートル（日本の約 20 倍）
- ・人口は約 2500 万人（日本の約 1/5）
- ・首都はキャンベラ
- ・公用語は英語
- ・政体は立憲君主制。現在の首相はアンソニー・アルマニージー
- ・通貨はオーストラリアドル

## 2. オーストラリアの概観

- オーストラリアの国土は、大陸本土の他、タスマニア島など多数の島からなっている。ウエスタンオーストラリア、クイーンズランド、サウスオーストラリア、ニューサウスウェールズ、ヴィクトリア、タスマニアの6つの州とノーザンテリトリー、オーストラリアンキャピタルテリトリーの2つの準州からなっている。(マリオン市のあるサウスオーストラリアは、以下「南オーストラリア」と記す)。本土は砂漠地帯が多く、国土に占める砂漠の面積は約140万平方キロメートルで総面積の18%を占める。特に西部に多く、乾燥した砂漠や荒野が続く。
- 居住地域は、気象条件や交通事情などから人口の9割が沿岸部に住む。東部、南部、南西部に集中し、特に、キャンベラ、シドニー、ブリスベン、メルボルン、パースとマリオン市の近くのアデレードなどの大都市に集中している。国土が広いので南北の移動には飛行機で4時間、東西の移動には6時間を要する。**outback** と呼ばれる内陸部は広大な土地だが砂漠が多く、居住しているのはわずかな先住民で、かなり不便なため生活は孤立した状態で、油断すると命を落としかねない場所である。
- 民族は、イギリス、アイルランドを中心とするヨーロッパ系移民が圧倒的に多く、その他はアジア系移民、少数の先住民（アボリジニ、トレス海峡諸島民）である。
- 季節は日本と逆で、夏は11月～3月、冬は5月～8月。ただ、オーストラリアの国土は広いので地域によって大きな違いがある。ニューサウスウェールズ州、ウエスタンオーストラリア州の中央部、クイーンズランド州では暑い夏と温暖な冬を楽しむことができるが、ヴィクトリア州やタスマニア州では昼が短くひんやりとしている。乾燥した内陸では1年を通して日中は暑く、夜間はすごく寒い。
- 気象は、東部、南東部の海岸地域で雨が多いが、中部以西は雨が少なく1年を通して乾燥している地域が多い。
- 宗教は、キリスト教、イスラム教、仏教など、多くの宗教が信仰されていて、これが多様性を生んでいる。
- オーストラリアの代表的な観光名所としては、グレートバリアリーフ、ウルル（エアーズロック）、シドニーのオペラハウス、ハーバーブリッジなどがよく知られているが、この他にも各地に多くの観光名所があり、それらの一つ一つが映像で紹介された。アデレードにある **National Wine Center of Australia** では、南オーストラリアで生産されるすべてのワインのテイ

ティングができる。

- オーストラリアには、カンガルー、ワラビー、コアラ、カモノハシ、タスマニア狼など多くのオーストラリア固有の野生動物が棲息している。世界で唯一有袋類が生息している国でもある。また、オウム、カワセミ、エミューなどオーストラリアに棲息する固有の鳥類がいる。
- オーストラリアの誕生の歴史として、17世紀、1642年にオランダの探検家タスマンが初めてオーストラリアの周りを航海し、18世紀に入って1770年にイギリスの探検家クックがオーストラリアに上陸した。その同時期にフランス人もやってきていたがクックはオーストラリアの鉱物資源にいち早く目をつけ、フランスに先駆けてイギリスの領有を宣言し、この地域をニューサウスオーストラリアと名づけて植民地化し、その後連邦化した。
- 先住民のアボリジニは、西洋人が入植してきた頃には約600の種族がいたとされている。彼らには共通の言語がなく、文字も存在していないことが多い。西洋人の入植が平和的に行われて友好的なものと思っていたが、気づいたら土地を取られていた。この時期のアボリジニー（先住民族）は、ブーメラン、槍などを用いて自然に依存した狩猟や採集を行って生活していた。

### 3. 南オーストラリアに特有の生物たち

南オーストラリア州には近海も含めて、特有の生物が多数見られる。その中からトップ10が映像とともに紹介された。

#### No.10 Sea Dragon

タツノオトシゴに似た海水魚。海藻のような形をした皮膚は周囲のものに簡単に同化する。

#### No. 9 Wombat

有袋類で哺乳類の動物。身長1m、体重40kgの体型になる。掘る力が強く、冷たくて湿気の多い土中に穴を掘って住む。

#### No. 8 Glossy Black Cockatoo

艶のある冠羽をもつ黒色オウムで、体長は45~50cm、棲息数は少なく1995年の調査で200羽と推定されている。

#### No. 7 Short Beaked Echidna

細くとがった口をもつハリモグラのことで、体長は35~40cm、体重は4~5kg。餌はアリ、シロアリで鼻の先端にあるセンサーで臭いを感知するのが特徴の動物。

#### No.6 Emu

オーストラリア生粋の最も大きな鳥で、身長（高さ）は2mに達する。鳥

ではあるが飛べない。しかし走る速度は速く、長距離でも 50 km/h で走ることができる。

#### No. 5 Great White Shark

世界で最も大きな肉食魚で体長は 6 m、体重は 2250 kg を超える。最近の調査で 9 か月間で 2000 km 遊泳・移動したことが明らかになっている。

#### No. 4 Yellow Footed Rock Wallaby

黄色のストライプ模様の尻尾、黄色の足、灰色の胴体で、カンガルーに似ている。キツネなど草食獣に狙われ易く生息数が減少しているため、主に生息している Flinders 地区で保護プログラムを作り保護に当たっている。

#### No. 3 Sea Lion

これはオットセイで、カンガルー島のシール湾に約 500 頭の集団をつくって棲息している。魚やイカなどを食用としている。

#### No. 2 Red Kangaroo

カンガルー種の中で最も大きく、有袋類の中で最も長命である。全力で走ると 1 回の跳躍で約 9 メートル飛ぶことができる。夜行性で夕方から夜間に活動し昼間は寝ているか休んでいる。

#### No.1 Koala

コアラは、指に指紋がある数少ない哺乳動物の一つ。コアラの代謝率は非常に低く、1 日のうち 18~20 時間寝ている。脳は非常に小さく頭蓋の 40% しかない。アデレードの丘、カンガルー島で見られる。

### 4. 南オーストラリア州の社会と政治の歴史

#### ・南オーストラリア州の歴史

オーストラリアがイギリス本国からやってきた流刑者によってインフラが整備されたのは有名だが、南オーストラリア州は、シドニーで成功した富裕層がアデレードにやってきて、自由に土地を購入してよいという政策によって開発が進み、1901 年、オーストラリア連邦成立に伴い南オーストラリア州となった。

#### ・州の警察の設置

1838 年に州の警察が州の最初の法律の執行機関として設立された。これは、その後の地域の効果的な治安を作り上げるための土台となった。警察は新しい居住地の秩序の維持、法律の順守、地域の自衛に当たった。

#### ・州の地方自治の確立

1856 年に州の地方自治が確立され、住民の選挙で選ばれた議会で法の

制定や州内の教育、健康、インフラなどの任務を州独自で行えるようになった。宗教の自由が確保され、政治的にも自由。イギリス本国の権力を排除し自治区として発展していく。それが、ユニークな教育や選挙政策につながった。

- 州の教育

子どもへの教育は、1870年に制定されたオーストラリアの教育法によって、社会的、経済的環境に係わらず州の全ての子供が教育を受けられることが定められた。アデレード市にあるアデレード大学は1874年に創立され、女性が授業を受けることが認められた。エミリーダンウェル（女性）が1885年に理学士の資格を得て卒業した。女性が学位を取得して卒業したのはロンドンの大学に次いで世界で2例目である。

- 州の女性の選挙権の取得

1894年に、州の女性に選挙権が与えられ、世界で初めて女性に被選挙権を含む参政権が与えられた。

- 日本とオーストラリアの関係

日本とオーストラリアは、大戦の後は親密な友好国の関係にあり、経度が日本とほぼ同じのため日本との時差は少ないという利点があり、その利点からも日本はオーストラリアにとって重要なパートナーになっている。貿易も盛んで、例えばオーストラリアで最も人気のある車はトヨタであり、オーストラリアから日本へは麦、羊毛、肉、鉄鉱石やリチウム等の鉱物、さらに南オーストラリアから海産食品を輸出している。西オーストラリア州の Broome という町は養殖真珠が有名で、かつて多くの日本人が移民してきた場所である。

## 5. オーストラリアの気候変動の影響と改善

- 気候変動の影響として、近年、二酸化炭素などの温室効果ガスの影響により、オーストラリア全土で気温の上昇、降雨量の減少が続き、大きな影響を受けている。昨年2022年は、オーストラリアの120年の歴史で最も暑い夏となった。
- 具体的な影響として、大規模な森林火災の多発と農地の早魃が挙げられる。森林火災は二酸化炭素の排出を増やすだけでなく、森林が消失することにより二酸化炭素の吸収能力が減り温暖化を助長させる。早魃は農作物の生産に大きなダメージを与えている。一方、沿岸部ではたびたび洪水が発生するような豪雨に見舞われている。このような気

候変動の影響とみられる気象変化がこの10年で急増している。

- 国内でできる対策として、石炭や石油などの化石燃料の使用を減らし、国内の色々な分野で進んでいる技術を駆使し、太陽光、太陽熱、風力などの再生可能エネルギーの開発を進めている。再生可能エネルギーへの関心の高まりは、蓄電池の性能が向上したことで、企業も個人もソーラーシステム導入に積極的になっている。その他カーボンフットプリントを削減する動きにも積極的で、今後は二酸化炭素を地中に埋め込むなど新たな技術の開発に期待を寄せている。

- 最後にグレートバリアリーフについて。

グレートバリアリーフは、オーストラリア北東部の沿岸に広がる世界最大の珊瑚礁だが、海水温度の上昇などで白化現象＝死滅＝が進んでいる。海洋生物の保護や生態系の維持のためにもグレートバリアリーフの保存が急務である。

以上